

くらしナビ / 学 ぶ

学校や自宅が、海面からどのくらいの高さ(海拔)にあるか、知っていますか。津波や高潮からの避難を考える時、重要なデータになります。海拔を示した表示板をアートの力でアピールし、防災につなげようという大阪市此花区の取り組みを紹介します。

【伊地知克介】



■ゼロ地域多く

昨年9月、此花区の大阪市立梅香中学校で、「防災アート」が完成しました。学校の門のそばにある「マイナス2」の海拔表示を陶板(難波津焼)で作った大きな鳥の絵がデコレーションしたアート。

課題 1

自宅や学校がどのくらいの海拔にあるか、地図で調べてみよう。

鳥のデザインを考え、北谷美緒さん(15)は、海拔表示は普段から見ていて「このあたり低いかなあ、と思っていた」と。みなさんの津波への意識を高めることになれば、と思います」と話しています。大きなものだけに、作業は手間がかかり、前部長の吉山由依子さん(15)は、「ボランティアのみさんにも協力してもらって、完成した時は『やりきった』という実感がありません」と話していました。

此花区には海面より地面の方が低い「ゼロ」の地域が多く、台風などによる高潮などの懸念される土地柄です。南海トラフ巨大地震の際の津波では、避難する場所が少ないのが課題。区役所では津波避難ビルを増やすなどの施策を進めています。十分ではありません。梅香中も津波避難ビルになっており、1700人が避難する可能性があります。

課題 2

津波や高潮の心配はどのくらいあるだろう。海拔が低い場合、どこに逃げるのがいいのか、考えてみよう。

この試算をしています。地域との合同避難訓練を行うなど、防災意識を高めているところだということです。



アートの制作に励む大阪市立梅香中学校の生徒たち。昨年8月、此花区役所提供

課題 3

海拔表示が身近にあるだろうか。見つめてみよう。存在をもっと知ってもらうにはどうしたらいいか、話し合ってみよう。

課題 4

出たアイデアを基に、みんなで実践してみよう。

区役所はこの海拔表示をデコレーションするアートを今年度も増やしていく方針だということです。

中学校側も、避難訓練など防災力を入れており、「生徒たちが、それまで何気なく見てきた海拔表示に改めて注目したという面はあると思う」としています。

■区と生徒の協力で

此花区は2007年ごろから「アートのあるまちづくり」プロジェクトに着手し、ワークショップや壁画制作を進めてきました。区内の各地に陶板を使ったアートが見られます。中学校の海拔表示をアートによって飾るプロジェクトは12年度から

東日本大震災の被災地では、海拔表示自体を増やすことに取り組んでいる学校もあります。電柱などに張っていくのが、こうした地味な活動が実際に津波や高潮の際に役立つものになると言えます。

虫が蜜を見つける方法は

疑問 氷解

Q 虫はどうやって蜜を見つけるの。

A 兵庫県の伊丹市昆虫館副館長の坂本昇さんは

「花の色が虫を呼び寄せる一因になっていることはわかっていて話します。ハチやチョウなどの昆虫は、人が認識できない紫外線を見ることがあります。花は紫外線を反射したり吸収したりしていて、こうした働きが「蜜標」と呼ばれる目印になっています。ハチやチョウはこの蜜標を見分けて、蜜のあり

かがわかんことを考えられています。

ミツバチは、経験を通して花の色を見分け、蜜を吸いにいくと考えられています。まだ学習経験のないミツバチは、本能で青や黄色の花のほうへ飛んでいきます。蜜を見つければ、巣に戻ってから、巣箱から見た蜜のある場所の角度を、ぐるぐる8の字にまわりなが

花の色見分け経験と本能で

ら仲間伝えています。これを「ミツバチのダンス」といいます。

人工的につくった青色の花を置いておくと、アゲハチョウが蜜を吸いにやってくるという話です。坂本さんは「チョウは蜜がある花の色を本能で知っているようです。それぞれ種類によって色の好みがあり、すみ分けていると考えられます」と話します。

入れて置いているのですが、色に関係なくチョウが蜜を吸いにいくという話です。「チョウもミツバチと同じように、蜜のある場所がある程度は記憶できるのではないかと推測します。花ではなく木の樹液を吸うチョウもいるという、匂いも関係していると考えられています。」

こうした虫たちは、花にとって重要な役割を果たしています。虫が蜜を吸うときに、おしべの花粉がめし

【谷田朋美】
毎日小学生新聞から転載。次回は15日掲載